

# ファッションタウン桐生「2008わがまち風景賞」 講評と審査経過

## 1 . 審査講評

### 『桐生の懐の深さ』

審査委員 山口 一郎

4月26日の現地調査では、錦町と織姫町にまたがる赤岩用水および日本織物発電所跡を出発点にした。黒保根町のトンネルを抜けたばかりの高い橋から清流と曲りくねった旧道を見下ろして深山幽谷の雰囲気味わった後、つつじ街道を下ってレンギョウの咲き乱れる山麓の黒保根交流推進センターを訪ねた。赤城の最高峰である黒檜山頂はあいにく雲の中であったが、市街からそう遠からぬ美しい自然の中に、モダンな建物が映えていた。渡良瀬川沿いの街道からもう一度山に入り、新里町に下った所でサクラ草自生地に着いた。雑木林の斜面に点在する可憐な花をイノシシなどから守るボランティアの方々の苦労話に自然の厳しさと気まぐれを感じた。さらに里山に出て、大きな木立があちこちに散らばる畑を前にした善昌寺に到着した。ひっそりとした裏山の五輪塔群の雨風で粗く削られた石肌、その中央のひときわ大きい塔が新田義貞の首塚という。再び桐生の町に戻って宮前町の斜面を走る風雅な路地を経て、梅田の製茶工場を訪ねた。湿度が高く、寒暖差が大きい好環境で栽培された茶葉を集め、数時間の工程を経てお茶にするまでの手順をていねいに説明して頂いた。このように真近かな場所で生産された新茶を味わえるのは素晴らしい。桐生遊園地は見学しなかったが、最近のテレビドラマ「夢の遊園地」のロケ地になり、美しい自然環境に囲まれて、桐生市民の思い出を育んできた。今回選定された5件は、自然保護、地域産業、史跡、長い間親しまれてきた遊戯公園、そしてこれからの活用が楽しみな施設、と多彩である。いかにも桐生の懐の深さがよく表われた審査結果ではないだろうか。

(前群馬大学工学部教授)

### 『地域の文化、歴史に触れる』

審査委員 久保田恵美子

この『わがまち風景賞』審査におきましては、毎回頭を悩まします。特に本賞の趣旨をどう理解し、判断を何処に置き 選定していくか、自分なりに色々迷うのと同時に、責任を感じるからです。でも、楽しみでもあります。それは、各地域の文化や歴史など、肌に触れる事ができ、新たな発見に巡り会えるからです。

今回選定された案件は、地域全体的なバランスのとれた形で、戦略的な面からも、まあまあ結果であった様に考えられます。

結論としましては、緑豊かな自然環境のなかで、“わがまち桐生”を歴史的背景の持つ、活気にあふれた“魅力あるまち”にし、後世に向けて伝承する事が、重要であると考えます。そして、この『わがまち

風景賞』が、地域の掘り起こしにつながり、また、まちづくり活動の促進により寄与する事を願っております。

今回も、大変有意義な現地視察に参加出来たことを嬉しく思っております。

(桐生大学教授)

### 『近代化遺産での昼食に感激』

審査委員 佐瀬 勝彦

「わがまち風景賞」の審査に初めて参加させていただきました。

第1回目の打ち合わせ会では、真剣に取り組む審査員の皆様に圧倒され、第2回目の現地調査では、今にも降り出しそうな空模様に関心させられました。

今回の現地調査は、新里町、黒保根町の推薦個所を優先して行い、時間の範囲内で、他の個所を調査するということでしたので、私的に一番興味があった「名久木のシンボル 榎」は時間の都合上今回のルートには入りませんでした。機会を作ってプライベートでぜひ行ってみたいと思います。

昼食は、事務局の粋な計らいにより近代化遺産であるベーカリーレンガの、中庭を見渡せる雰囲気の良い居間で、おいしいパンやスープをいただきノスタルジックな雰囲気に大変感激しました。今までは工場ということで外観しか見ることしかできなかった建物でしたが、ベーカリーレンガになり、「横浜赤レンガ倉庫」の雰囲気を漂わせる店内に蘇らせ、大変興味深く感心させられました。

来年はどんなところを見学できるのか今から楽しみにしています。

(桐生市総合政策部伝建群推進室長補佐)

### 『多くの思い出や約束を受け止めてきた風景』

審査委員 山田 耕司

この賞のよいところは、観光地を選ぶわけではない、という覚悟が審査会場に漂うことにあ  
る。自分にとって大切な風景を選ぶ、その姿勢がイイ感じなのである。桐生とは、こうした個人的な思い出がまことによく似合う街だと思う。テレビ朝日で放映された「未来遊園地」のスタッフは、桐生が岡遊園地を「かけがえのない施設だ」という。遊園地のすばらしさは、遊具の新しさや規模の大きさでは決まらない・・・ 親から子へ、そしてその子がまた親になって子を連れてくる、その長い時間をあたたかく受け止め続けたことが空気に溢れている施設だ、というのだ。大切な風景とは、記憶のよりどころとなることであり、かつ、これからも記憶をつむぎ続ける空間のことを言うのかもしれない。桐生が岡公園遊園地は、集客性のある観光ポイントとしてではなく、多くの思い出や約束を受け止めてきた大切な風景として選考されたことをあえて申し添えたい。

(わたらせフィルムコミッション代表)

## 『イキイキ桐生』

審査委員 齋藤 千江

前回より風景の候補多かったのは、「わがまち風景賞」という名前が市民の皆さんに浸透してきたことでしょうか？そうであればいいなって願いもあります。

まだまだ自然の残る、黒保根の清流・新里・市内・梅田のお茶作りなどと巡り、新緑のころの審査会だったので、桐生は緑と自然に恵まれていることを感じました。

審査会は、自分が今まで知らない桐生の顔を発見できる場でもあります。そして皆さんに伝えられる場でもあると思います。

選ばれなかった候補の中にも「桐生らしさ」「桐生の歴史のひとつ」が見えてくる場所もありました。

今まで気が付かなかった場所があるので、次回の「わがまち風景賞」に応募してみましょう。桐生を少しでもイキイキさせることが出来るように、賞を取ったものも、そうでないものも、みんなの目が向いていくように、たくさんアピールしていきます。お役に立てますように・・・。

((社)群馬建築士会桐生支部女性部会)

## 『審査風景』

審査委員 赤池 孝彦

3年目のマンネリ化した審査員としてできることは、審査を以前と比較してその相違点を指摘することが実務と考える。プロジェクトリーダー・審査員として毎年名前を連ねているが姿を見たこともない人たちもいる、不思議な風景。とりあえず、現場の風景を述べることにする。

・1次審査は仕事の都合上、欠席させていただいた。前回は、1次審査は省かれたが案件は13件。今回は、以前のように1次審査を実施して12件。そこを2次審査のバスツアーで巡る。「風景賞」審査員13名、プロジェクト委員8名、商工会議所員2名。行程は、午前、黒保根・新里エリア。昼食は、旧金谷レース工場改修後のベーカリー・カフェ「レンガ」。午後、桐生梅田エリア。特徴としては、候補の中に「建物」だけでなく「風景」が多かった。

・審査会場は商工会議所の4階会議室に戻って行なわれた。

・前回決められなかった審査委員長は、今回互選で決められたが、実務的な手際が良かった。投票は、13名の審査員のみ。前回投票したプロジェクト委員、不在者などの投票はなかった。

・投票は、「応募・推薦リスト」39件のうち、すでに「風景賞」受賞済みの5件を除いた35件(審査会場で委員長から黒保根から1件追加)つまり、バスツアーで廻らない箇所も候補に入れられているので、行ったことが場所も多数決では「風景賞」を受賞する可能性もある。つまり、1次審査は、2次審査でバスツアーを巡る場所を決める審査であって、決して落選している訳ではない訳である。

・投票は、3件選択。過半数を越えた2件を除き、再度3件選択投票。1回目の投票の次点3件が上位3件と重なったため、審査終了。また、何度読んでも理解しにくい審査基準は削除され、予定通りに終了した。

以上が今回の「審査風景」である。「風景賞」の質を重視すると毎年5件では多すぎる嫌いが

ある。最初の投票で過半数を越えた2件だけでも良いような気がした。

(補説)

・群馬県と桐生市の指定天然記念物「新里サクラソウ群落」の駐車場でサクラソウを販売している光景を目にしたが、『サクラソウの歴史は盗掘と水害とイノシシ被害の歴史であり、栽培して売って保護することから行なわれている』と説明があった。

・「桐生が岡遊園地」は、バスツアーでは廻らなかった。委員長から「動物園」も含むのではないかとの意見もあったが、行政上も別扱いなので別枠となった。

(美術作家・桐生森芳工場運営委員)

### 『誰かが皆に伝えたい場所』

審査委員 岩崎 正徳

桐生は衰退していると言われて久しい。

人口の減少・高齢化の進展・工場の市外への流出などが、人々に桐生へのひとつのイメージを形づくっており、それが、深く静かに伝播している。「ああ、このままだと桐生はダメになってしまう。」市民がこの思いに捉われている限り、市の活力は生まれてこない。

自分の住む町が好きだと思うのは、そこに、誇りを持つことができるからである。「わがまち風景賞」は、このような桐生の状況に対してどういう意味を持つのだろうか。

今年も多くの風景がリストに上がっている。それを見ていると「桐生にはこんなところがあるのか」とつくづく思う。だれもが認めている歴史的遺産から人によっては何の変哲もない、1本の木であったり、路地であったり、尾根道であったり、清流であったり、橋上からの風景だったりする。共通しているのは、誰かが皆に伝えたい場所であるということだ。

私は願う。これら豊穡な風景が明日の元気な桐生のために、桐生市民としての誇りを取り戻すきっかけになることを。

(桐生市総合政策部広域調整室長)

### 『桐生らしさ』

審査委員 蓼沼 千秋

今回、初めて審査に参加させて頂きました。

たくさんの応募の中から、5件を選ぶのはとても責任を感じました。ひとつひとつ見ていくと、すでに選ばれていて当然のものが、まだ選ばれていなかったり……。実際にその場所を見学し、新たな発見もしました。

推薦者のコメントも、それぞれの想いがあって、ますます選ぶのが困難になり、他の選考委員さんのお話を伺いながら“桐生らしさ”を感じてもらえるものを選びさせて頂きました。お世話さまでした。

(桐生市民活動ネットワーク「ゆい」)

## 『周囲の景色とマッチしているか』

審査委員 工藤 如奈

今回、桐生の歴史や建築物を「制作者」ではなく「審査員」という視点からみることができ、大変勉強になりました。

私は県外から学びに来ている者なので、行く所全てが初めて見る景色ばかりで観光気分で審査しておりました。事前に少し調べておいたその案件の歴史と、その案件が周囲の景色にマッチしているか、に重点をおき私なりに審査いたしました。歴史は深いし建築物としても素晴らしいけれど、周囲の建築物や景色が物寂しいものだったり、現代的過ぎたりしてはミスマッチで「わがまち風景賞」にはそぐわないと思うからです。

「わがまち風景賞」の審査に参加できましたことは大変光栄なことです。貴重な経験をさせていただき、どうもありがとうございました。

(桐生大学短期大学部)

## 2 . 2 0 0 8 わがまち風景賞の審査経過

「2008わがまち風景賞」は平成19年10月末から翌20年2月末まで案件の募集を行った。今回も平成19年秋の桐生ファッションウィークに桐生市有鄰館味噌醤油蔵で「わがまち風景賞パネル展」を開催し、この会場でも推薦用紙を配布した。

応募ポストの設置は桐生市内5か所（有鄰館、ゆい、織物参考館、桐生ガスプラザ、無鄰館）に設置、推薦者の利便を図った。推薦・応募案件は、延べ39案件にのぼった。昨年はプロジェクトチームが意見を集約し、審査委員会に提案し、現地視察会を行う案件を絞って、1回の審査委員会とした



が、今年は従来型の2回の審査委員会を経て、案件の選定を行った。

審査会は4月16日（水）に第1回審査委員会を開催し、現地視察案件の選定を行った。第2回審査委員会は4月26日（土）に午前8時から中型バスにより桐生商工会議所会館を出発。委嘱された19人の審査委員のうち委員12人が出席した。プロジェクトメンバーは7人、事務局2人を加えて、総勢21人。現地視察は新里町、黒保根町、旧桐生市を含み13件で次のようなコースで審査を行った。

赤岩用水・日本織物発電所跡 根利の道「日本のシルクロード」 小黒川の「超清流」

赤城黒檜山 黒保根交流促進センター 新里町サクラ草自生地 善龍寺の山門 善昌寺 宮前町の路地風景 旧住善織物工場 梅田町青木家住宅 ぐんま製茶の製茶工場 カトリック桐生教会

午前8時からとスタート時間が早かったこともあり、それぞれの案件を比較的じっくりと見ることが出来た。それぞれの案件については各審査委員のコメントを参照していただきたい。

現地視察については、黒保根地区は、町田プロジェクトメンバー及び新里地区は、天沼プロジェクトメンバーより詳細に説明がなされた。また、バスの中や桐生商工会議所に戻ってからも熱心な意見交換が行われた。今回、審査委員長は山口一郎氏が選任され、同氏が座長として議事進行し、審査員から第1回投票により2件を選出し、第2回投票により3件が選出された。結果的には得票順に「2008わがまち風景賞」5案件が選出された。

### ファッションタウン桐生「わがまち風景賞」

- 2001 有鄰館・アッシュ・泉新・宮本町和洋折衷住宅群・山手通り・本町1、2丁目
- 2002 今源織物・金善ビル・桐生織塾・群大同窓記念会館・芭蕉・錦桜橋
- 2003 矢野本店店舗・桐生天満宮古民具骨董市・菱の氷庫・後藤の鋸屋根工場・須藤邸
- 2004 大川美術館・田村家住宅・桐生森芳工場・彦部家住宅・無鄰館
- 2005 金谷レース工業・南川潤住宅・日本キリスト教団桐生教会・樹徳高等学校木造校舎・桐生新町西裏路地
- 2006 元宿浄水場の昭和初期の建物群・鳳仙寺・玉上薬局・ぐんま昆虫の森・旧水沼製糸場
- 2007 織物参考館“紫”・旧東洋紡織工場・藤生家住宅・水道山記念館坂道のある風景・旧書上商店ゆかりの建物群